

阪神・淡路大震災から25周年

危機と震災トラウマからの回復

ディスカッションへの参加 **1,000円**
(質問やコメントができます)

* 有料参加者の定員数は90名を予定しています。

視聴のみ: **無料**

2020年

11月22日(日) 9:30-12:00

Zoomを用いてオンラインで開催いたします。

インターネット環境さえあれば、どこからでもご参加いただけます。

講師紹介

オーガナイザー : **永山智之** (国際力動的心理療法学会第26回大会会長/
兵庫教育大学講師/PAS心理教育研究所客員研究員)

チエア : **小谷英文** (国際力動的心理療法学会理事長/
PAS心理教育研究所理事長/国際基督教大学名誉教授)

スピーカー : **小林和** (精療クリニック小林院長)
菊地いつか (NPO法人「阪神・淡路大震災1・17希望の灯り」理事)

レスポnder : **宇佐美しおり** (四天王寺大学看護学部教授/
看護実践開発研究センター長/熊本大学名誉教授)

スケジュール

9:30~9:40	ゲストのご紹介と本プログラムの趣旨
9:40~10:00	講演: 小林和先生「危機に、新しい知恵を得て生きる」
10:00~10:20	講演: 菊地いつか氏
(10分休憩)	
10:30~11:45	全体ディスカッション
11:45~12:00	まとめ

HPまたはQRコードからお申込みいただけます。

<https://www.26annual.iadp.info/> (「IADP第26回大会」で検索)

開催前日までに、参加URLをメールでお知らせいたします。

ディスカッションへの参加をご希望の方は、
参加費のお支払いを確認させていただいた後、参加URLをお知らせいたします。
(お支払い後のキャンセルについての返金は承れません。予めご了承ください。)



参加申し込み

協力助成

- ・(社)日本臨床心理士資格認定協会、
兵庫県臨床心理士会
- ・(公財)精神分析武田こころの健康財団
- ・PAS心理教育研究所

お問い合わせ: 国際力動的心理療法学会
第26回年次大会事務局

E-mail office26@26annual.iadp.info
本大会のTwitter・Facebookもございますので
ぜひチェックをお願いします!

ご挨拶

阪神・淡路大震災から25年を迎えました。この四半世紀の間にも、私たちは数多くの災害を経験することになりました。

そして今、私たちはコロナ危機に直面しています。あなたは今、ご自身や家族、身の回りの大切な人の心のケアはできていますか？

長期にわたり予測不可能な中、不安やストレスが高まりやすくなっています。しかし、この危機はチャンスにもなります。

では、チャンスにするには、どのような視点で、何をしたらよいのでしょうか？

今回の市民講座では、阪神・淡路大震災から学び、コロナ危機に立ち向かうにあたり、心の育ちと回復の鍵に焦点を当てます。そして、親や教師、養育に関わる大人の男女の協働・愛情交換により、「がんばろうKOBE」(働くこと)から「育もうKOBE」(愛すること)への展開を確かなものと思いたいと思います。

そのヒントを得るために、お二人のゲストをお招きします。お一人は、思春期に被災し、(心的)外傷後ストレス障がい(PTSD)で苦しい時期を過ごされた後、震災の語り部をしながらお子さんを育てておられる菊地いつかさんです。もうお一方は、ご自身も被災されながらも、阪神・淡路大震災の被災者や子どもたちの心の支援に尽力されてこられた小林和先生です。

さらに、東日本大震災や熊本地震、そしてまさに今、コロナ危機の心の支援に携わっている専門家も加わり、市民の皆様からの声も聞かせていただきながら、阪神・淡路大震災を軸に危機からのトラウマ/PTSD予防(教育)、初期対応、中長期対応の現状、直面する問題、回復の鍵を明らかにしたいと思います。

どなたでもご参加いただけます。子育て中のお父さん、お母さんも。子どもたちの健やかな育ちを支えておられる学校の先生や教育関係者、地域の方々も。最前線で闘っておられる医療関係者の方々も。ぜひご家族や職場、地域の方々を誘っていただき、ご参加ください。

実践知から学びながら、新たな一歩を共に踏み出しましょう。

大会会長 永山智之

小林和 (精療クリニック小林院長)

精神科医。阪神・淡路大震災では、「震災ストレスほっとライン24時間」を開設し、PTSD発症予防に貢献してきた。2016年、国内2番目の施設設置を目指す「NPO法人こうのとりのゆりかごin関西」副理事長に就任している。

菊地いつか (NPO法人「阪神・淡路大震災1・17希望の灯り」理事)

震災の語り部。震災で妹を亡くした後、自宅跡に咲いたヒマワリが震災復興のシンボルとなった一方、家族関係は崩壊。著書「はるかのひまわり」で苦悩を乗り越え、再び前向きに人生を歩むまでを描いている。

宇佐美しおり (四天王寺大学看護学部教授/看護実践開発研究センター長/熊本大学名誉教授)

精神看護専門看護師(CNS)。熊本地震での被災者であり支援者であった看護職の抑うつ、PTSDの予防及び慢性疾患の悪化防止の介入プログラムを実施し成果をあげた。この仕事はWHOから高く評価されている。現在も看護職の災害対応の訓練プログラム、次いでコロナ対応医療従事者に対する災害支援プログラムの開発事業を展開している。

小谷英文 (国際力動的心理療法学会理事長/PAS心理教育研究所理事長/国際基督教大学名誉教授)

精神分析的心理学を専門とし、東日本大震災の際には仙台及び郡山を拠点に計6年間、熊本地震の際には計3年間、中長期のPTSD対応に従事している。災害危機対応マニュアル『不測の衝撃』(2014, 金剛出版)監訳。トラウマと危機に関する国際研究会にて招待基調講演(Crisis and Trauma: In between destruction and hope, Thessaloniki, Greek, 2019)。